

## 茨城観光の鍵握る「アマビエちゃん」

新型コロナウイルスの収束が見通せない中、茨城県では、ある“妖怪”が感染拡大防止とともに、観光を含む経済活動の振興の鍵を握っている。疫病退散に御利益があるとされる「アマビエ」だが、絵を飾るなどして感染を鎮めてもらうわけではない。感染者と接触した可能性がある人にメールで通知する県独自のシステム「いばらきアマビエちゃん」のこただ。

同システムは、店舗やイベント会場などに掲示したQRコードからメールアドレスを任意で登録させ、後日、感染者が出た場合、同じ日に同じ施設を利用した人にメールで注意喚起する仕組み。登録する事業者は、QRコードとともに感染予防策を記載した「感染防止対策宣誓書」を作成し、掲示することで、利用客に感染予防の取り組みをPRできる。

県は6月末に運用を開始。当初は登録が伸び悩んだが、キャラバン隊による啓発などにより、登録事業者はじわじわ増加。今月には、「アマビエちゃん」の事業者登録と県民の利用登録を義務化する県の条例が施行された。

現在では、飲食店や宿泊施設、集会・イベント会場などで登録は浸透しつつある。実際に利用者の感染報告を受け、メール連絡するケースも出てきたという。

ただ、次のハードルは、利用者の登録数増加だ。店や施設などを訪れるたびに、QRコードを読み込むよう習慣づけられるか。高齢者を中心にスマートフォンを持たない人や、操作が苦手な人も多く、県は操作がより簡易な専用アプリも導入する。

「アマビエちゃん」は、コロナ禍で苦境にあえぐ県内観光業者からの期待も大きい。「Go To トラベル」への東京追加を受け、より多くの観光客の来県が見込まれるためだ。国営ひたち海浜公園のコキアや果物狩り、紅葉など茨城の秋の見どころは多い。県内観光地などでは、感染対策を万全にしなが、来客を心待ちにしている。

茨城新聞社 報道部長兼論説委員 松下倫



「いばらきアマビエちゃん」の登録事業者が店頭で掲示する宣誓書



飲食店などを回って「いばらきアマビエちゃん」の登録を呼び掛ける茨城県職員（右）＝7月、水戸市笠原町